「尾州廻船内海船船主内田佐七家」特別公開イベントの参加　－地域の人々との協働活動－
～知多半島の古絵葉書に残された風景の現状～

経済学部　助教授　曲田浩和

内田佐七家公開準備に向けて

内田佐七家には、明治2年（1869）に建てられた屋敷が残っています。また、建物だけでなく、廻船の道具や生活道具なども残されています。

今回、現代GPのメンバーが、道具の整理や掃除などの整理にあたりました。まず、2005年夏、現4年生の学生が中心となり、内田佐七邸から家財道具を南知多町体育館に運び込みました。

2006年夏、経済学部2年生が、地域のボランティアの方々と一緒に、地元の家財道具の掃除や整理を行いました。整理はこれまで行っていた道具調査カードと現物との確認作業です。ボランティアの方からは、若い時の経験が、年を取ってから活きてくるから、今のうちに色々なことを経験しておくことが大切とか、学生の若い力をもらい、元気になれるという声を聞きました。地域の方の学生をみる温かい眼差しに感謝します。2006年秋には、内田佐七邸での公開のための準備作業にも学生が参加しました。

内田佐七家とは?

内海は廻船業のさかんな土地であり、内海船という廻船集団を形成していました。なかでも、内田佐七家は、幕末から明治にかけて10艘近くの船を持つ、内海船の有力な廻船船主の一家です。明治になると、内田家は郵便事業を請け負い、銀行を開設するなど地域の発展に力を尽くしました。さらに、大正期には武豊と内海を結ぶバスの運行、温泉の掘削などの開発を行い、観光地・内海の基を築きました。

「尾州廻船内海船船主内田佐七家」の特別公開

実施日時：2006年11月23日（祝）～26（日）
10:00 ～ 15:00
場　　所：南知多町　内田佐七家

「尾州廻船内海船船主内田佐七家」は、今後 2006 年 12 月 17 日（日）より毎月1回第 3 日曜日に公開します。入館は 10 時から 15 時まで。

インタビュー
地域活動に向けて学生に期待すること

南知多観光
ボランティアガイド
松本亀男さん

「汗を流してこそ身につく」

南知多観光ボランティアの会員は、内海の廻船主・内田佐七家を中心に「江戸時代を探しに」と名付け案内をしています。内田家が11月23日から公開されています。公開に伴い、邸内の掃除・収蔵品の展示などのお手伝いをしています。内田家を案内し、身体を動かすことによって、より内田家を知ることができます。汗を流して覚えたことは、自分の血肉になると会員は考えています。

日本福祉大学の皆様と、南知多観光ボランティアとの交流は三年前からです。経済学部の学生の皆様に「内海」を案内したり、石造物の発表を聞いたりして交流を図っています。

内海の町を汗を流して歩いたあとの学生のレポートはよくできていました。また、石造物の調査をした結果発表は自信に満ちたものでした。夏の暑い日に収蔵品の整理のお手伝いをしたことは記憶に残るでしょう。

内田家「古絵葉書調査」が終了しました

2005年秋から2006年夏までの約1年間、経済学部4年の米倉春香さんと社会福祉学部4年の大橋かざみさんが、知多半島総合研究所の協力を得て、内田佐七家に伝わる絵葉書431セット3516点の調査を行いました。内田家が内海の絵葉書を製作するなかで、多くの地域の絵葉書を収集しました。大正11年（1922）に行われた東京平和博覧会のものもあり、貴重な絵葉書が数多く残されていることがわかりました。この成果は、次年度の報告書に掲載予定です。

当時の様々な場所での絵葉書が
このようなきれいな状態で残されています

石造物調査の報告書が完成しました

2005年度の「海と文化とものづくりプロジェクト」では、内海の神社に残る石造物調査を行い、この報告書が完成しました。この報告書は今年度から始動された「古絵葉書」プロジェクトに反映されました。およそ100件の石造物から内海をみると、違った形で内海の歴史を考えることができます。この調査は現4年生26名が担当しました。